

学生寮お茶大 SCC 入寮希望者に関する一考察 —平成 23 年度から平成 27 年度の新入生の生活 に関わる調査より—

北澤泰子

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

A study of applicants in the student dormitory :
From the report on “The research of the life of the new students
between 2011 to 2015

Yasuko KITAZAWA

Ochanomizu University; Student and Career Support Center

はじめに

お茶の水女子大学学生・キャリア支援センターでは、平成 23 年度から、新入学生（学部 1 年生）とその保護者を対象にした、新入生の生活に関わる調査を行っている。調査の目的は、学生本人および保護者の大学へのニーズを明らかにすることによって、お茶の水女子大学の学生・キャリア支援活動をより効果的に行うための基礎資料とすることである。

今年は調査を開始してから 5 年目を迎えたが、毎年多くの新入生とその保護者に協力いただいております。回収率は 80% を超えています。本論文ではこのおよそ 2,000 名の回答データを基に、どのような学生が学生寮お茶大 SCC を希望しているか、家庭の経済状況、受験から入学までの間に困ったこと・不安だったこと、学生支援活動を期待しているかといった項目を中心に分析をおこなった。

学生寮お茶大 SCC について

お茶の水女子大学の学部 1 年生が入寮申請ができる学生寮は、板橋区大山にある国際学生宿舎とキャンパスから歩いて数分の距離にあるお茶大 SCC (StudentsCommunityCommons、以下 SCC) の 2 つある。国際学生宿舎は申請の際に通学時間が片道 2 時間以上であること、経済状況、家庭状況を考慮して選考を行い、入寮を許可している。SCC の申請には通学時間の制限を設けはしないが、申請者の父と母双方の収入、又はこれに代わって家計を支えている者の収入合計額が 900 万円未満という制限を設けている。

寄宿料は月 30,000 円 (光熱水費・インターネット接続料は別) となっており、近隣の賃貸マンションや学生向けマンションに比べると 2 分の 1 ~ 3 分の 1 である。

SCC は、「共に住まい、共に成長する学生寮」をコンセプトとし、平成 23 年に開寮した。五人で一つの「ハウス」を形成するルームシェア型で構成され、定員は 50 名である。学部 1 年生と 2 年生が、日常的な交流の中で自分の学びを人に伝える力を育て、視野を広げることを目的にしている。また、学部 3 年生 4 名がレジデント・アシスタント (RA) として共に住み、寮内活動のサポート、相談、大学との連絡調整を行っている。

寮内の活動の総称を「学生支援プログラム」としており、全寮生が委員会に所属し「学修プログラム」や「寮祭」といった行事の企画実施を行っている。本論文の筆者は、SCC の学寮アドバイザーとして学生支援プログラム全体の統括を行っている。設立の経緯、学生支援プログラムについては (お茶の水女子大学学生・キャリア支援センター 2014) を参照されたい。

分析対象者について

本論文の分析対象者は、平成 23 年度から平成 27 年度新入生生活調査の入学予定者用の質問紙で、「大学入学後の学生生活について」の項目で、「(2) 大学入学後に予定している住居すべてに○をつけてください。」において、「大学の寮 (お茶大 SCC)」を選択した者を「お茶大 SCC」、それ以外の者を「お茶大 SCC 以外」で区分している。保護者についても同様に、入

学予定者の保護者用の質問紙で、「(16) 本学の学生寮について、希望する者すべてに○をつけてください。」において SCC を選択した者、それ以外を選択した者で区分している。

本調査の調査時期は3月となっているが、合格発表と入寮者発表の時期が数日空いているため、記入した時期によっては、必ずしも SCC に入寮している学生が全員回答しているとは限らないが、どのような学生が SCC に入寮を希望しているかという視点で分析を行った。新生の回答は5年間の合計で SCC は207名、SCC 以外は1,848名、保護者の回答については、SCC は353名、SCC 以外は1,549名となっている。年度ごとの分布は Figure1、2 に示している。

どのような新生が入寮を予定しているか

(1) 学部学科

Figure3 は、学部学科別の SCC 入寮予定者を示した結果である。実際の SCC 入寮者の傾向として、文教育学部、生活科学部が多く、理学部は少ない。年度によって3学部のバランスは異なるが、概ねこの図表の通りである。文教育学部の中では、特に人文社会学科、言語文化学科、理学部では数学科、生活科学部では人間生活学科の者が多い。

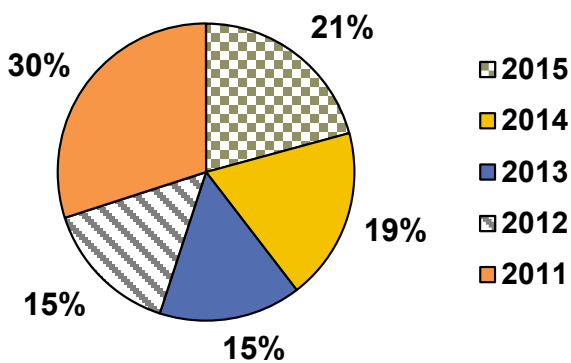


Figure1 新生：大学入学後の SCC に入居を予定している

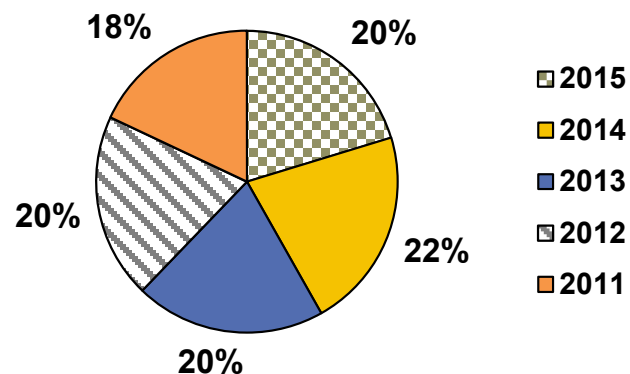


Figure2 保護者：大学入学後に SCC 入寮を希望している

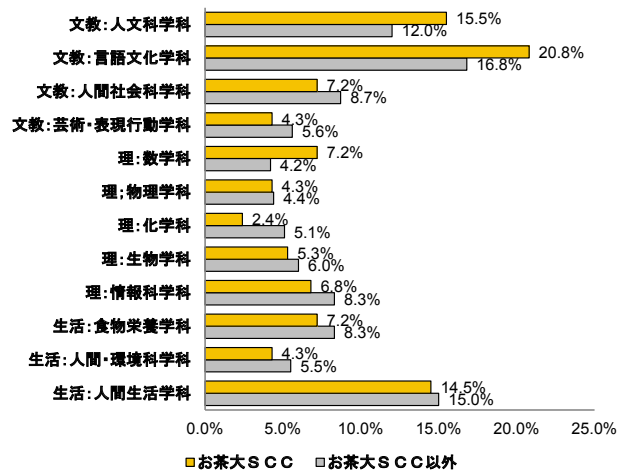


Figure3 学部学科別の SCC 入寮予定者の状況

(2) 出身高校、受験決定時期、高校時代に取り組んでいた活動

Figure4 は、出身高校の設置者別に尋ねた結果である。公立高校出身者が SCC 以外の者と比べて 21.2 ポイント高く、私立高校出身者は 19.4 ポイント低いことがわかった。

Figure5 は、出身高校の種類別に尋ねた結果である。「3年制」の高校出身者は 14.6 ポイント高く、「中高一貫」出身者は、12.8 ポイント低いことがわかった。

Figure6 は、受験を決めた時期を尋ねた結果である。SCC 入寮予定者は高校3年生の4～8月が 26.1%最も多く、次に高校2年生に決めた者が 20.3%と多い。SCC 以外の学生は、高校2年生の 25.3%が最も多いという結果になった。

Figure7 は、受験時に本学が第一志望であったか

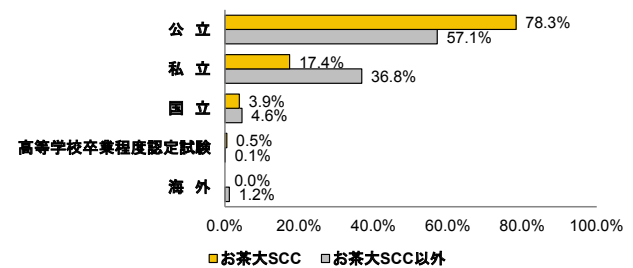


Figure4 出身高校の設置者

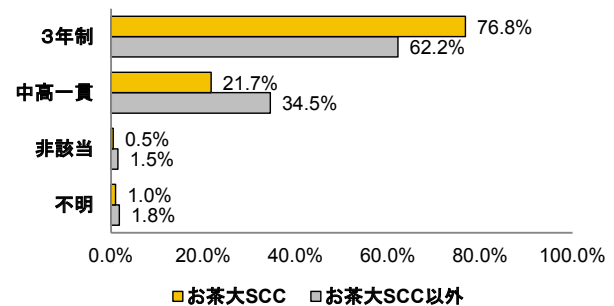


Figure5 出身高校の種類

否かについて尋ねた結果である。SCC 以外の場合も 82.8% と高い割合が示されているが、SCC 入寮予定者はさらに高い 92.8% という結果になった。

Figure8 は、高校時代に取り組んでいた活動について尋ねた結果である。SCC 入寮予定者は、高校の授業 87.0%、授業以外での勉強 50.7%、ボランティア 10.1% について SCC 以外の者と比べて割合が高く、部活動 69.1%、友達との交流 69.1%、趣味 45.9%、アルバイト 1.0% については、差は見られなかった。

(3) 兄弟姉妹人数、仕送り額、授業料負担者

Figure9 は、兄弟姉妹人数について尋ねた結果である。SCC 入寮予定者と SCC 以外には大きな差はみられなかった。2 人きょうだいが 54.6% と最も多く、

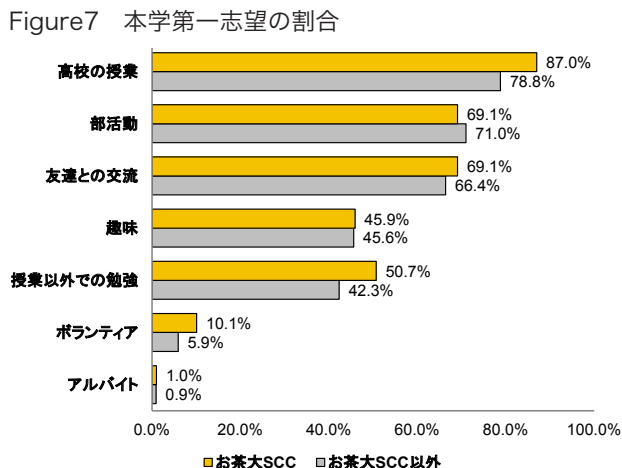
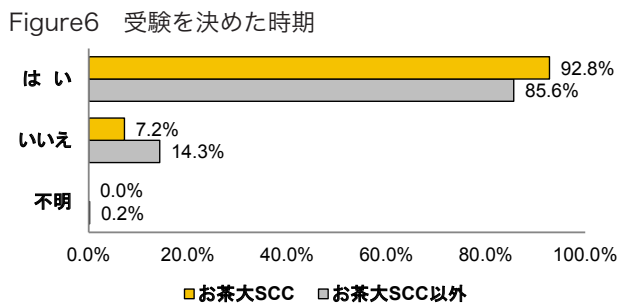
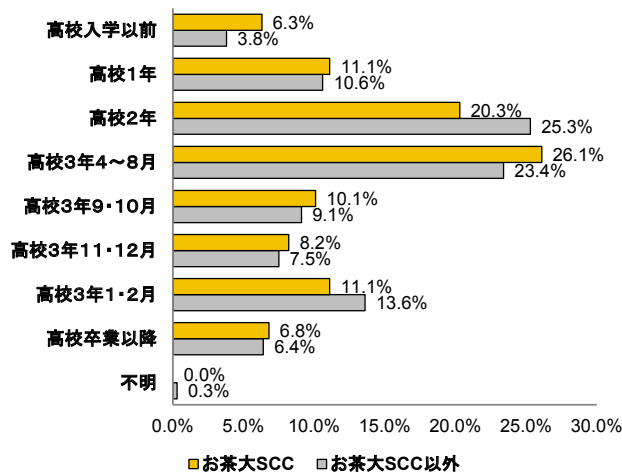


Figure8 高校時代に取り組んでいた活動

その次に 3 人きょうだいの 28.0% という結果が示された。

Figure10 は、1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について尋ねた結果である。SCC 入学予定者は 4-6 万円が 29.6% と最も高く、続いて 10-12 万円、7-9 万円という結果であった。また、「仕送りはない」と回答した者も 11.6% おり、半数が 6 万円以下の仕送りで生活を送っていることがわかった。

Figure11 は、授業料の負担予定について尋ねた結果である。SCC 入寮予定者は、「ほぼ全額を保護者が負担」が 60.4% 「一部を本人が負担」が 32.4% であることがわかった。ほぼ全額を保護者が負担している割合が、SCC 以外と比べて 22.8 ポイント低く、奨学金やアルバイト等何かしらの形で、授業料の負担していることがわかった。

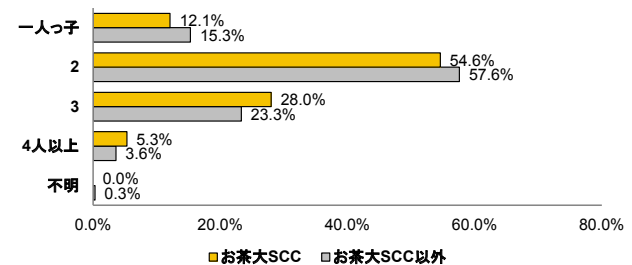


Figure9 兄弟姉妹人数

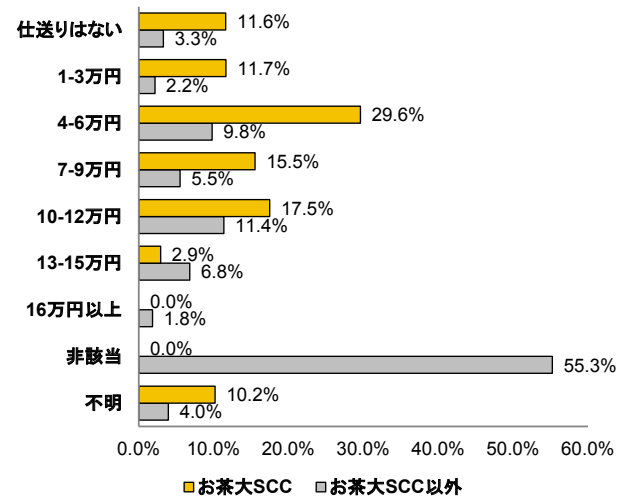


Figure10 1 か月あたりの仕送り予定額

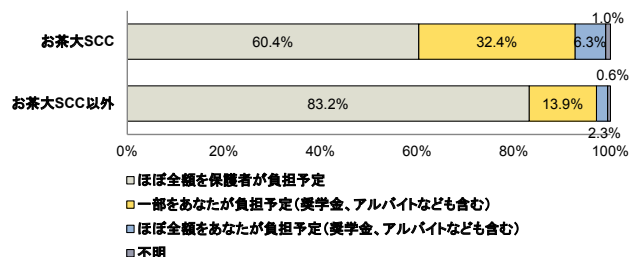


Figure11 授業料の負担予定

(4) 大学生活での不安・心配事

Figure12～15は、大学生活での不安・心配事を尋ねた結果である。「友達ができるか」、「大学になじめるか」、「将来の目標が見つかるか」についていずれも、SCC入寮予定者とSCC以外とでは大きな差は見られなかった。Figure15の「金銭面で負担がかからないか」については、「あてはまる」、「ある程度あてはまる」の合計が87%と高く、SCC以外の者と比べて大きな差があることがわかった。SCC入寮予定に関わらず、新入生の70%近くが、友達ができるか、大学になじめるかという不安な気持ちの中で入学準備をしていることが見受けられる。

Figure16は、期待する学生支援活動について、尋ねた結果である。SCC入寮予定者は、経済的相談を期待する者が57.0%と高く、生活相談32.4%、心理相談18.8%、健康相談19.8%についても、SCC以外の者と比べて期待する割合が高いことがわかった。

どのような保護者が、子の入寮を希望しているか

(1) 仕送り、授業料負担

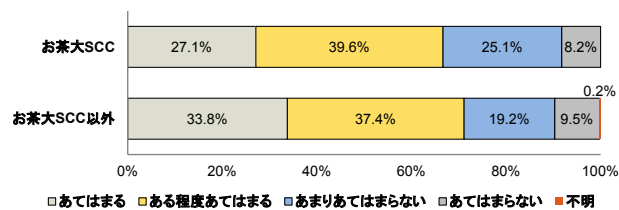


Figure12 友達ができるか

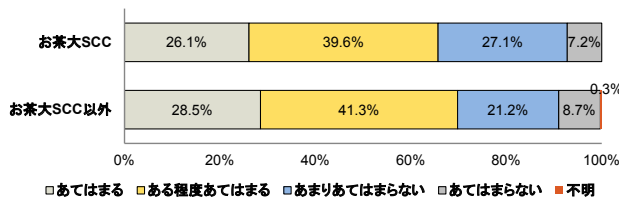


Figure13 大学になじめるか

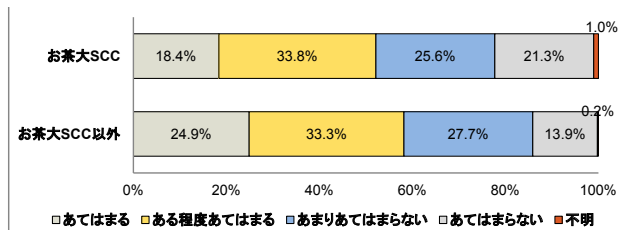


Figure14 将来の目標が見つかるか

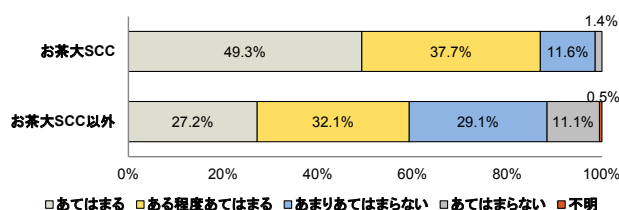


Figure15 金銭面で負担がかからないか

Figure17は、保護者を対象に1か月あたりの仕送り予定額(万円未満は四捨五入)について尋ねた結果である。SCCに入寮を希望する新入生の保護者は、4-6万円が26.6%と最も高く、続いて10-12万円、仕送りはしないという結果であった。新入生対象のも同様の質問があったが(Figure10)、4-6万円の割合が一番多いことには変わりはないが、保護者調査の方が仕送り金額を多く回答する割合が高かった。Figure18は、保護者を対象に、授業料の負担予定について尋ねた結果である。SCCに入寮を希望する新入生の保護者は、「ほぼ全額を保護者が負担」が70.0%「一部を本人が負担」が24.9%であることがわかった。新入生対象のも同様の質問があったが(Figure11)、保護者対象調査の方が、全額保護者負担の割合が多い結果が示された。SCC以外の者に比べて、全額保護者負担の割合が低いのは、新入生も保護者も同じ結果が示された。

(2) 暮らし向き、世帯年収、家計を支えている人の年収

Figure19は、保護者を対象に、大学入学後の家

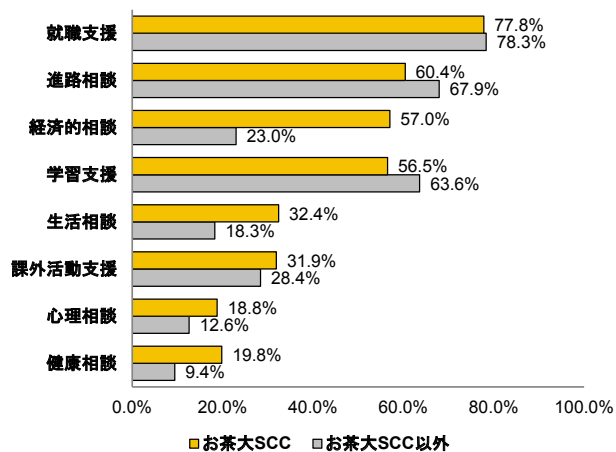


Figure16 期待する学生支援活動

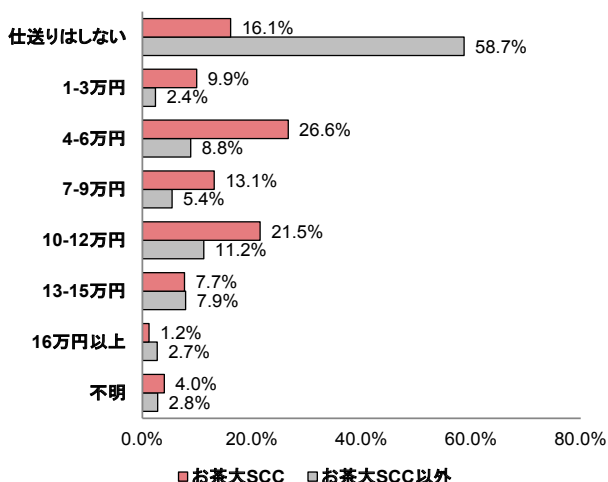


Figure17 1か月あたりの仕送り予定額(保護者)

庭の暮らし向きについて尋ねた結果である。SCCに入寮を希望する新入生の保護者は、「ゆとりがない」42.2%、「あまりゆとりがない」44.8%であることがわかった。SCC以外の者と比べると、「ゆとりがない」は28.1ポイント高く、大きな差が見られた。

Figure20は、保護者を対象に、家庭の世帯年収について尋ねた結果である。SCCに入寮を希望する新入生の保護者は、「600万円以上800万円未満」26.1%、「800万円以上1,000万円未満」24.6%が半数を占めることがわかった。SCC申請の際に、所得による制限があるため、900万円以上の場合は申請をすることはできない。また、もう一つの国際学生宿舎については、経済状況、家庭状況を考慮した選考となるため、申請しても許可が下りるとは限らない。このような理由もあり、600万円以上1,000万円未満の割合が多いことが、推察される。

Figure21は、保護者を対象に、家計を主に支えている人の年収について尋ねた結果である。SCCに入寮を希望する新入生の保護者は、「600万円以上800万円未満」34.3%、「400万円以上600万円未満」18.4%、「400万円未満」19.0%と、800万円未満の割合が70%を占める。Figure20の世帯年収と比べると、世帯年収800万円以上の家庭は、複数の収入を合算していることが推察される。

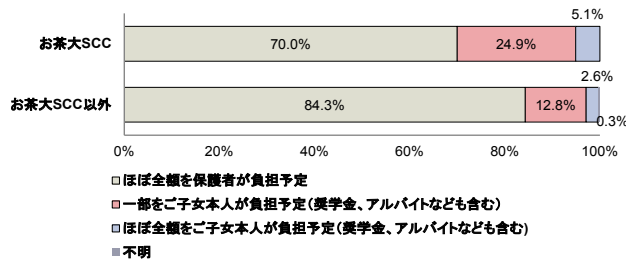


Figure 18 授業料の負担予定 (保護者)

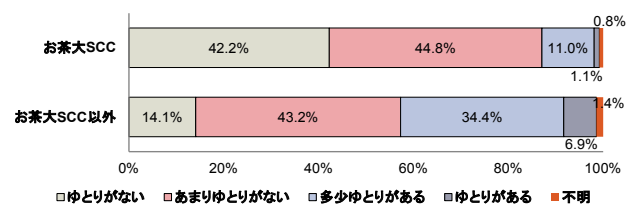


Figure 19 大学入学後の家庭の暮らし向き

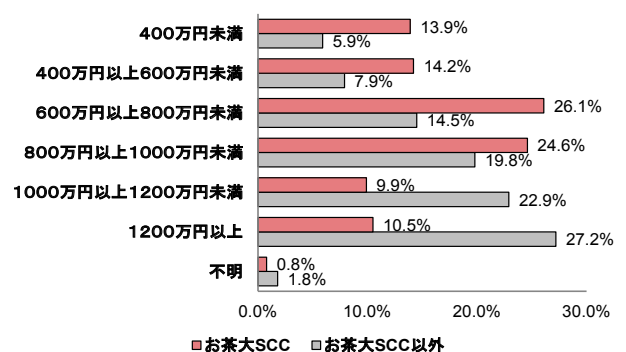


Figure 20 家庭の世帯年収

と、世帯年収800万円以上の家庭は、複数の収入を合算していることが推察される。

(3) 受験から入学までに困ったこと・悩んだこと

Figure22は、保護者を対象に、受験から入学までに困ったこと・悩んだことについて尋ねた結果である。SCCに入寮を希望する新入生の保護者は、「入学後の住まいさがし」70.3%、「受験から入学のための費用準備」47.3%、「入学時に必要な生活用品や教材の準備」36.0%について、SCC以外と比べると割合が高かった。

お茶の水女子大学の学生寮の入寮申請は、例年2月に行われ、発表は3月の前期日程後と後期日程後の2回である。SCCは倍率があるため、申請しても必ず入寮できるとは限らず、国際学生宿舎と併願して申請する学生も多い。このような事情から、住まいさがしについて、生活用品の準備についての不安を抱える保護者が多いことが推察される。

(4) 大学生活開始後に心配なこと

Figure23は、保護者を対象に、大学生活が始まって心配なことについて尋ねた結果である。SCCに入寮を希望する新入生の保護者は、健康面65.4%、生活経済面61.8%、日常生活全般53.0%について、SCC以外と比べて割合が高いことがわかった。特に生活経済面は34.8ポイント、日常生活全般は20.9ポイントの差があることが示された。

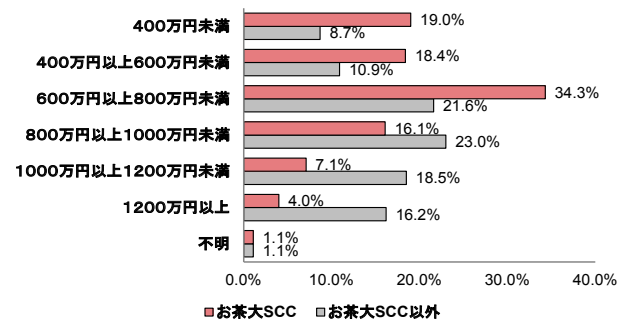


Figure 21 家計を支えている人の年収

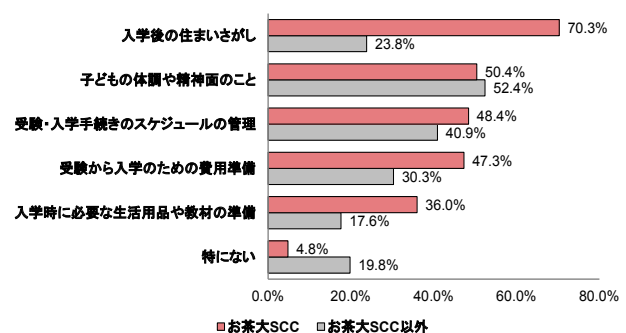


Figure 22 受験から入学までに困ったこと・悩んだこと

(5) 期待する学生支援活動

Figure24は、保護者を対象に、お茶の水女子大学の学生支援活動で期待するものについて尋ねた結果である。SCCに入寮を希望する新入生の保護者は、就職支援85.6%、進路相談71.4%、学習相談53.3%と、SCC以外の者との大きな差が見られなかった。しかし、経済的支援、生活支援、健康相談では、SCC以外の者と比べて、20ポイント以上期待していることが示された。本調査からは、学生寮に関心のある者は、奨学金についても関心が高いという結果が示されていることから、経済的支援、生活支援については入学後も継続的に情報を発信していく必要があると考えられる。

おわりに

本論文では、SCCが開寮した年と同じ平成23年に始まった新入生の生活に関する調査について、5年間

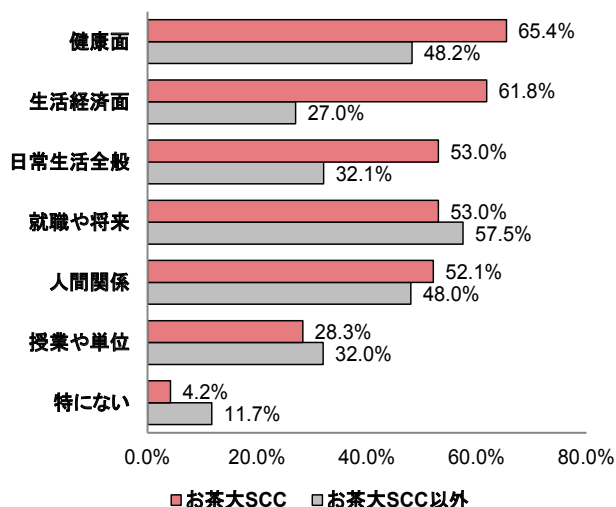


Figure23 大学生生活開始後に心配なこと

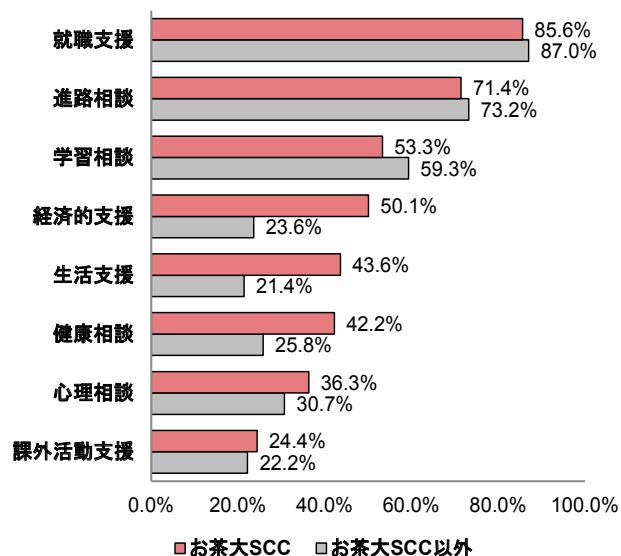


Figure24 期待する学生支援活動

蓄積されたデータを基に分析を行った。SCC入寮予定者、SCC入寮を希望する新入生の保護者について、SCC以外の学生、保護者との間には学生生活支援に関すること全般にわたって、どのような違いがあるかについて明らかにすることができた。

SCC入寮予定者については、Figure10、11の仕送り額、授業料の負担予定にあるように、多くの寮生が仕送りの他に奨学金やアルバイトをして、その一部を授業料や生活費に充てていることがわかる。奨学金には「みかかずば奨学金」のように給付かつ予約型のものであれば、日本学生支援機構の奨学金のように貸与型のものもある。SCCの寮費は30,000円と相場に比べて抑えられており、入寮と同時に経済支援を受けられていると思われがちであるが、40%近くの学生は授業料の全額又は一部を本人が負担している。

このような学生の経済状況はSCCにおいて、寮内の学生支援プログラムとアルバイトの両立ができるかどうかという議論が発生する。SCC寮生は学修プログラムをはじめ、寮内で行われる行事に積極的に参加することが望まれるが、どの程度参加するかは各自に任されている。アルバイトの方に重きをおいて、寮内の行事に参加しないという場合は、SCC設立の本来の目的とは異なる生活を送ることになる。しかし、授業料、生活費をアルバイトで賄うという場合に、月にある程度の日数のシフトに入らなければ難しい。多くの寮生は寮内の行事や委員会とアルバイトを両立させていて、授業との兼ね合いもあり労働時間を調整している。大学に入学後に初めてアルバイトをする学生も多く、寮内の活動との両立について、気をつけていく必要があると考えられる。

SCCに入寮を希望する新入生の保護者については、Figure22の受験から入学までに困ったこと・悩んだことにあるように、入学後の住まいさがしについて、多くの保護者が困ったことに挙げていることがわかる。例年7月に行われる学部オープンキャンパスにおいて、寮生が中心となり「SCC紹介コーナー」のブースを設けているが、地方に住む高校生とその保護者の多くから、同様の質問を受けることがある。寮生のなかには、学生向けマンションを入試の前後に下見し、仮申し込みをした上で、学生寮の申請をしている者もいる。しかし、一般の賃貸アパートやマンションでは、仮申し込みの際に入居に係る料金の一部を納める場合や、取り消しまでの期間の設定が短いこともある。現在の入試日程に伴う、入寮発表から入寮日までが20日間（後期日程の場合は1週間）というスケジュール

ルを変更するのは難しいと思われるが、住まいさがしの不安が少しでも解消されるような方法を検討していくことは、学生支援活動のなかで重要であると考えられる。

注

調査にご協力くださいました新入学生とその保護者に、心から感謝申し上げます。

参考文献

お茶の水女子大学 (2014) 「平成 26 年度新入生の生活に関する調査報告書」. お茶の水女子大学学生・キャリア支援センター

お茶の水女子大学 (2014) 「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」 事業最終報告書 pp.32-75,110-114 お茶の水女子大学学生・キャリア支援センター .

2015 年 12 月 8 日 受稿